

函館の日常 学生の視点で



個性的な中づり広告が並ぶ530号車内

最古の市電530号 中づりで発表

加藤准教授の研究室では、人々の集う「場」をテーマに、都市社会学やコミュニケーション論の観点から研究を進めている。7月には、神奈川県内の江ノ電沿線で調査活動を行い、中づり広告で成果を発表した。函館では9月29、30の両日、市電沿線で調査活動を行い、学生らの希望もあり、営業車両で最も古い530号を利用して「ギラリーエ電車」を運行することになった。

19枚のポスターのうち、「はこだてれつど」としてまとめた作品は旧函館ドックの大型グレーンや商店の看板、金森倉庫の外壁など、赤色のものを写真で集め、「函館のまちは、いろんな表情で、さまざまな色がある」とコピーをえればうれしい」と話した。このほか、青空に浮かぶ高田屋姫兵衛像や住吉町でイカを干してたフィールドワークの成果をまとめたもので、学生の視点から見た函館の日常風景がスターに収められ、乗客の関心を集める。

9月に市内で調査活動
慶大生19人のポスター
加藤准教授 「感想寄せて」
いる様子など、日常の何回運行を予定。運行スケジュールの確認は、交通局運輸課電車係☎0138・52・1273へ。
加藤准教授は「通常の調査では、その成果を調べた地域で発表する」<http://fka.bne>となく終わることが多いが、一つの方法として中づり広告を用いた。学生たちが函館とコミュニケーションを取っていくときにかけとて、気付いたことや感想を寄せてもらおう」と話す。

慶應義塾大学環境情報学部（神奈川）の学生が作製したポスターを展示する「中づりギラリーア」が19日、函館市電530号車の車内が始まった。同学部の加藤文俊准教授のゼミ生19人が9月末、市内の市電沿線で実施し

たフィールドワークの成果をまとめたもの

で、学生の視点から見た函館の日常風景がスターに収められ、乗客の関心を集めてい

る。